

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

ゲーム

1回戦

1

帽子の色 白

伊奈学園総合高校
4

天候: 晴れ

0	-	3
1	-	3
0	-	0
3	-	3
	EX.	
	-	
	P.T.	
	-	

青 帽子の色

埼玉栄高校
9

審判1: 若林 和人
審判2: 中 哲朗

戦評

2002茨城高校総体のオープニングゲームは、同県同士の対戦となった。フリー抽選の結果とはいえ、普段の練習時からお互いの手の内を知り尽くしている同士の対戦であり、埼玉県大会・関東大会と対戦し県大会での対戦は栄が、また関東大会では伊奈が勝っている。興味津々のゲームである。伊奈は59年埼玉の県立高校としては初めての総合選択制高校として創立された高校で、各学年24クラスという大規模校で部活動も盛んである。栄はスポーツの盛んな私学校であり、過去インターハイ優勝2回・3位2回と十分な実績を有する強豪チームである。接戦すると思われた試合は予想外の展開となった。伊奈の下がり目のセットディフェンスに対し、栄は左45度から和田のミドルシュートがキーパーの手をはじいてゴールすると、大宮がフローティングからバックシュートを決め、さらに相手退水のチャンスに永沢がゲット、序盤でリードする。早めに追いつきたい伊奈も右サイド斉藤からの早いセンタリングをFLエース青柳が高いタップシュートで追撃する。しかし栄は大宮、続いて小山内がフロートから得点する。栄は伊奈のセットディフェンスに応じて自在にフローターを切り替えながらポジショニングをするというミスマッチをねらった作戦のようで、これが見事に当たっている。このピリオド小野塚のカウンターノーマークのゴールもあって、前半5点のビハインドで折り返す。1対1の勝負ができる選手がいる伊奈だけに早く点差を縮めておきたいところだが、青柳や三浦の再三のチャンスメイクにも、栄GK小島の好セービングや連携してのディフェンスでよく守り追撃を許さず、オフェンスに関しても無理打ちを避け伊奈のカウンターをケアした落ち着いた攻めで主導権を渡さなかった。最後は伊奈も青柳・橋本・三浦が意地を見せ得点したが、序盤のリードを保った栄が初戦をものにした。伊奈は、前述した選手を含めディフェンスの杉山など個人技に優れる選手も豊富であった。初戦で消えるには惜しいチームである。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

1回戦
ゲーム **2**

帽子の色	白	$\left\{ \begin{array}{ccc} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 3 \\ 0 & - & 0 \\ 1 & - & 4 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	大分商業高校			尼崎北高校
	2			7
天候:	晴れ			審判1: 大川和二郎 審判2: 田原 忠雄

戦評

大分商業(大分)は9年連続14回目のインターハイ出場。昨年は初めて国体1回戦を突破したが、本年度は1点差で国体代表チームとして出場権を逃し、今大会に照準を合わせてきた。対する尼崎北(兵庫)は2年ぶり5回目の出場。昨年度のインターハイ出場を逃した悔しさをバネに今大会の出場を果たした。1p 開始早々、尼崎北が強引にロングシュートを打つが大きくゴールを外す。さらに尼崎北7番石垣(3年)がチャンスを作りループシュート打つが惜しくも外れる。両チームともゴール前でパスが繋がらず、ターンオーバーの連続。ゲームは尼ヶ崎北のペースで進行。3'40''尼崎北2番堀口(3年)が抜け出し、ノーマークシュートを放つがゴールを外しチャンスを逃したが、2'15''大分商7番工藤(2年)が退水でチャンスを作るがまたシュートを外す。2p 尼崎北は再び開始早々にロングシュートを放つがゴールを外す。5'30''大分商業5番山野内(3年)が退水し、尼ヶ崎北3番古家(3年)パワープレからシュートを放つが惜しくもポストにあたり得点出来ず。今度は尼ヶ崎北3番古家(3年)が退水し、4'38''大分商業4番上野原(3年)が、こぼれ玉を何とか押し込み1点先制(1 - 0)。しかし、大分商業3番沢田(3年)が退水し、尼ヶ崎北2番堀口(3年)がパワープレでゴール前ワンタッチを決め同点(1 - 1)。その後、尼ヶ崎北青13番西村(3年)がゴール前を個人技でディフェンスを廻し込んで1点追加(1 - 2)。続いて尼ヶ崎北は6番濱田(3年)からのパスを7番石垣(3年)がワンタッチでシュート(1 - 3)し、一気に点差を広げる。大分商業も攻め込むものの、ゴール前でフローターまでパスが上手く繋がらず得点に結びつかず。3p 試合は尼ヶ崎北ペースで進行し、尼ヶ崎北13番西村がバックシューを放つが、大分商業キーパー佐藤(2年)がナイスセーブで防ぐ。3'04''尼崎北13番西村が退水し、大分が1回目のタイムアウトを取る。しかし、ボール落球し決められず。両チームとも単攻めが単調になっている。

4p 大分商業山野内が果敢に攻め込みチャンスを作るがなかなか得点出来ず。尼崎北は3人攻撃に攻めを変更し、防御にかかる。尼崎北2番堀口がマークを回しこんでフローターシュートを決める(1 - 4)。さらに、大分商業10番高橋(2年)退水し、3'39''尼崎北濱田がミドルシュートを決め(1 - 5)、さらに点差を開く。その後、尼崎北は7番石垣(3年)がワンタッチでシュートを決めた(1 - 6)。

大分商業も意地を見せ、山野内がパスカットから自らボールを持ち込み、執念のゴールを決める(2 - 6)。しかし、5'6''に青2番堀口がカットインシュートからプッシュシュートを決めて5点差とした(2 - 7)。両チームとも果敢に攻め込んだが、わずかに尼崎北のシュート力が上回った試合だった。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

1回戦

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

3

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 3 - 0 \\ 5 - 2 \\ 4 - 0 \\ 3 - 1 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	鳥羽高校			山形工業高校
	15			3
天候:	晴れ			審判1: 小谷 正 審判2: 槇橋 邦広

戦評

両校とも古い伝統を誇る名門校であるが、学校週5日制の導入や新指導要領の施行にあわせ教育システムに関して新しい試みをし常に発展的变化を遂げている学校である。鳥羽は14回目、山形は15回目とインターハイ出場常連校として、各々個性的なチームカラーを持つ実力校同士である。鳥羽の監督岩佐先生は前任の河合先生から引き継ぎインターハイにチームを率いるのは初めてとなるが、自分の母校でもあり選手の信頼とコーチ経験は豊富である。山形の監督斉藤先生は創部以来17年間チームの指導に携わっており、チーム一丸・個性を生かす水球を貫き通してきている。今回はエージグループアジア選手権大会の日本代表に選ばれている、曲山(3年)に注目である。円陣を組んで鼓舞した位置がそれぞれ水中とプールサイドの差はあるものの、両チームとも気合い十分で臨んだ初戦は、鳥羽が圧倒する。パワープレーを白崎が得点し先制すると、中盤からプレスを敷き早い飛び出しのマイボールカウンターを仕掛け、頭一つ抜けた前へ前へのポジション取りから早いパス回しでチャンスメイク。芝山・神田の連続得点で3 - 0とすると、続く2pも白崎・神田・渡辺がゴール前で一歩抜けだし次々とゲット。山形はこれ以上離されてはならないと、ここまでアシストに回っていた曲山が積極的にゴール前で絡みチャンスを作り、パワープレー時に菅原(社)が左サイドから決めて1点目。フローターの庄司もゴール前で粘り個人技でゲット、2点を返す。しかし攻撃の手をゆるめない鳥羽は、その後も変わらずマシンガンのようなドライブからGKを振り切るようなアシストパス、カウンターからの速攻など多彩な攻めで宮越・白崎などが加点しゲームを制した。山形も最終pに意地を見せ曲山がさすがと思わせる個人技を絡めた動きからのゴールをしたが、時すでに遅く及ばなかった。鳥羽は小粒ながらスピードにあふれており、連続的なドライブと早いパス回しで終始リズムを崩さず展開した。山形も曲山と庄司のゴール前での絡みが見所を作ったが、今一歩決定力に欠け最後まで追いつくことができなかった。ただ、山形は1・2年生主体の若いチームだけに、このねばり強さをみると今後の成長が楽しみである。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

1回戦

4

帽子の色 白

福岡工業高校

11

天候: 晴れ

0	-	0
5	-	0
5	-	1
1	-	2
	EX.	
	-	
	P.T.	
	-	

青

帽子の色

関西高校

3

審判1: 大島 明
審判2: 榎本 隆

戦評

福岡工業(福岡)は14年連続26回目の出場で、これまでにインターハイ優勝2回・準優勝2回の実績を持つ名門チーム。対する関西(岡山)も7年ぶりの出場ではあるが、インターハイ優勝2回・準優勝5回の実績を持ち、古豪同士の戦いとなった。

1p 両チームともスローペースでスタートし、お互いに様子見でオーバータイム繰り返す。福岡はプレスを効かせ、パスカットからカウンターアタックをみせるが、なかなかパスが上手く繋がらない。関西はマンツーマンディフェンスで粘り強い防御を見せ、特にゴール前ディフェンスが効果的。また、両チームのキーパー(福岡:野田・関西:佐々木、両3年)のナイスセーブが続く。

2p 関西フローターディフェンスが退水から5'52''に福岡 口石(2年)がタップシュートを決める(1-0)。さらにカウンターアタック図るが、関西キーパーナイスセーブ。5'00''福岡 羽野(3年)がフローターからシュート決める。福岡のプレスが効果的で関西は、なかなかゴール前に攻め込めない。しかし、ディフェンスは頑張り、特にゴール前のディフェンスは良くふんばる。しかし、オフェンスが焦りからヘッドオフの反則を犯して、カウンターアタックから福岡中園(3年)にカウンターシュート(3-0)を許す。続けて、谷川(2年) 渡辺(3年)がノーマークで連続得点(5-0)。

3p ゲームはスローペースで展開始まる。関西はフローターの位置が浅くなり、無理してシュートを撃つが、キーパーにシュートコース読まれてしまう。4'03''福岡はカウンターから 渡辺がカウンターアタックで6点目(6-0)。さらに 羽野が連続カウンターシュートを決め、9番口石、7谷川(2年)も続けてカウンターを決め、試合は完全に福岡ペース。しかし、関西も諦めずゴール前に攻め込み退水を取り、関西 松本(1年)がパワープレーでノーマークシュートを決め1点返す(10-1)。

4p 福岡はマンツーマンディフェンスでフローターへのボールを通さず、羽野がカウンターシュート(11-1)。その後、福岡は鬼本にキーパー交代。関西も踏ん張り、ゴール前にボールが入る様になり、菊池(3年)が連続得点して反撃する(11-3)。試合内容は完全に福岡ペースで、特に中盤のプレスディフェンスが効いていた。関西では 菊池の動きが目立っていたが、なかなかシュートチャンスに持ち込めなかった。また関西は1年生多く、来年は楽しみなチームである。

記録者

石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

ゲーム

5

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 9 - 0 \\ 8 - 0 \\ 9 - 0 \\ 9 - 0 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	前橋商業高校			松山西高校
	35			0
天候:	晴れ			審判1: 中 哲朗 審判2: 田原 忠雄

戦評

26回のインターハイ出場6回の優勝経験を誇る前橋商業も、ここ2年間全国の切符を逃し3年ぶりの出場となる。レベルの高い関東を抜けることの難しさを感じられるところであるが、それだけに今年の前商の復活にはどれだけの努力を積み重ねてきたかがうかがわれ、今大会での活躍には期待のかかるところである。方や初出場の松山西、四国代表としては常連の高松南を抑えての全国初参戦、以前愛媛県には他にも水球チームがあったと記憶しているが、全国的に部員数確保の困難さが叫ばれている昨今であるし、四国という地域的不利さをも払拭してチームを育成することのご苦労も感じ取れる。ぜひ今後の普及にも繋がる良いゲームを期待したいものである。高いレベルで実践を積んでいるとはいえ、全員がインターハイ初経験ということもあってか多少浮き足だったミスもあったが、前評判どおりの強さを見せ前商が次々と得点する。志賀の小気味よい動きからの正確なシュート、小柄ながら足の強さが伺える糸井のフローティング、中村の高く強いディフェンス、お家芸のプレスディフェンスも健在で松山のパス回しもハーフライン前で寸断されることが多かった。前半の17点リードでメンバーを入れ替える余裕も見せ前商が勝利したが、決定的な場面でのシュートミスもあり課題が残った。松山はタイムアップまで3年生だけでプレイし高校最後の夏を戦い抜いた。2年生途中から入部し経験の浅さかったもう一人の3年生秋成も、終始ベンチから声援とアドバイスを送り続け、最終p1分間の実戦経験も積み水球を堪能することができたと思われる。この経験を地元を持ち帰りぜひ後輩達に受け継いであげてほしいと望むところである。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

6

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 0 - 4 \\ 1 - 6 \\ 0 - 2 \\ 0 - 4 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	名古屋高校			常総学院高校
	1			16
天候:	晴れ			審判1: 榎橋 邦広 審判2: 新井 睦士

戦評

名古屋は2年ぶり17回目の出場で、創部30年目の節目で何とか勝利を飾りたい。また、地元の常総学院も2年連続2回目の出場で、創部10年目の節目を飾りたい。1p 常総が積極的にカウンターを仕掛け、下村(3年)がナックリング、キャプテン池田(3年)がバックシュート、室町(3年)がループで3連続ゴール(3-0)を決めて優位に立ち、ゲームの主導権を握った。さらに室町(3年)が加点(4-0)。名古屋もゴール前に果敢に攻め込むが無得点。2p 常総はプレスデフェンスを徹底するが、退水を犯し、名古屋 矢野(2年)がパワープレーから1点返す(4-1)。しかし、常総はカウンターアタックから池田が反撃(5-1)。名古屋も落ち着きを取り戻しデフェンスが良くなったが、トップからの突っ込みに思わずデフェンスが退水を犯し、池田がパワープレーで連続得点。さらに室町が加点。名古屋はキーパーを交代し流れを変えようとするものの、また室町にカウンターから点を許してしまう(8-1)。名古屋は常総のプレスになかなかゴール前にボールを繋げなくなる。斉藤がミドルのバウンドシュートを決める。常総退水のチャンスもカウンターを許し、点差は広まる一方。3p 名古屋もGK坪井がナイスセーブを見せ、常総の攻撃をかわし、小康状態が続く。3'53''名古屋1回目のタイムアウトを取り、攻撃を仕掛けるが、パスミスでチャンスをつぶす。さらにGK坪井が連続のナイスセーブをするものの、常総 下村が連続得点(12-1)。4p 名古屋はGKを加藤(2年)に戻す。しかし、常総 下村に得点を許してしまう(13-1)。常総の攻撃はペースダウンし始め、名古屋が攻め込むチャンスが出て来たがどうしてもゴールを割れない。また、名古屋のGK加藤も好セーブを続け、引き締まった展開を見せる。しかし、常総はしぶとくカウンターで加点し、1失点で名古屋をかわした。この試合は常総の積極的なカウンター攻撃が光った。名古屋は再三の相手退水チャンスを生かし切れなかったのが痛かった。

記録者

石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

7

帽子の色 白

金沢市立工業高校

5

天候: 雨・曇り

1	-	2
2	-	1
1	-	0
1	-	1
EX.		
-		
-		
P.T.		
-		

青

帽子の色

柴田高校

4

審判1: 大島 明

審判2: 新井 睦士

戦評

台風13号の影響で天候不順となった大会2日目、明日の悪天候が予想されるため競技日程を繰り上げて、本日は10試合消化の予定で始まる早朝8:00からの第1試合。

過去全国制覇の経験もある実力校金沢市立工業とインターハイ連続出場場で昨年のチームからメンバーが1人抜けただけの柴田の対戦。

両チーム積極的に攻防を繰り返し、シュートを放つが金沢GK上田・柴田GK中山の両GKが落ち着いたセービングを見せゴールを堅守する。金沢のFL斉藤がゴール前でスクリーンからうまくシュートを決めると、柴田もパワープレーを佐藤(拓)がサイドからGKの頭上を抜くうまいシュート、さらにFL田中がゴール前で粘りPFを誘発しPTもしっかり決めて逆転する。2pに入り金沢はカウンターから瀬戸が決め追いつくが、そのCBの瀬戸がパーソナルF3回目を犯し永退。このパワープレーをうまいシュートで佐藤(拓)が決めリードを維持する。しかし金沢は積極果敢なドライブから退水が出て横山がゲットし同点に追いつき、これで後半へ。相手の出方に対応し始め均衡状態の攻防が続く中、金沢はプレスディフェンスから相手のパス回しを制御し、トップに返ったボールを東が奪いそのままゴール。とうとう金沢1点リードで最終pへ突入する。シーソーゲームの様相であった前半から比べると幾分攻防のスピードが落ちたようであるが、金沢 村山が虚をついたミドルシュートで貴重な決勝点となるゴールを決め2点差となる。追う柴田は、焦りからかオフェンスへのパスも足踏み状況の中であったが、ゴール前で退水誘発し12"を残して佐藤(拓)がゲットし1点差に詰め寄る。柴田は必死のプレスでボールを奪いにかかり、残り2"を残してマイボールからすかさずTOする。息詰まる雰囲気の中であったが最後のシュートは実らず、金沢が一点差を守り抜き勝利を得た。

このゲームでの印象は、両GKの好守が目立ったことと、TOをとるタイミングの差である。最後の2点差の攻防時、TOを取得するタイミングがこのゲームの勝敗を左右したと感じる。金沢に一日の長があったようである。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

8

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 1 & - & 2 \\ 0 & - & 4 \\ 2 & - & 2 \\ 2 & - & 5 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	黒	帽子の色
	富山北部高校			長浜北星高校
	5			13
天候:	曇り			審判1: 大川和二郎 審判2: 若林 和人

戦評

富山北部は、創部5年目で5年連続5回目の出場。高藤を大会2日前の公式練習で肩脱臼のアクシデントで欠き、7人のメンバーで試合に挑む。一方、長浜北星は、4年連続15回目の出場で、S56'に優勝の経験がある。今大会は3年生が1人で2年生中心のチーム編成でベスト4を目指す。

1P 長浜5'55''に 田中が左からのミドルシュートで先制。両チームのターンオーバーが続く。富山も反撃し、境田が左からミドルシュートを決める。長浜のフローターディフェンスがナイスセーブ連続。富山退水から、山口が追加得点。1ピリオド(1-2) 2P スローペースで展開。4'29''に長浜 清水がカウンターからワックタッチシートを決め、引き離しにかかる。さらに 清水連続で得点。長浜のプレスディフェンスが機能する。そして富山のペナルティーファールから長浜 山口が決める(1-6)。3P 長浜は下がり目を敷き、フローターを完全にマークする。しかし、2'32''富山 小杉が執念でフローティングシュートを決める。2'15''長浜退水、富山はすかさずタイムアウトを取り攻めるが得点出来ず。逆に長浜のカウンターアタックから1'49 田中が得点。富山も追いつき、1'28''富山 布目がミドルのハーフループシュートを決める(3-7)。0''長浜 田中がカウンターアタックで加点(3-7)。4P 6'13''富山 横井が永久退水。富山は交代がないので、6人となってしまった。その後、完全に長浜ペースになり、長浜は得点を続ける。しかし、富山も粘り、長浜のマークが甘くなったところをついて、小杉、藤川が執念でゴールを奪った。4ピリオド(5-13)。

この試合は、長浜の中盤のプレスとゾーンディフェンスが有効に機能し、富山の攻撃を押さえいていた。長浜のカウンターの泳力も目に見張るものがあった。富山はシュート力があり、メンバーが8人揃ってれば、もっと良い試合が出来た筈だ。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

平成 14 年 8 月 18 日

会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

9

帽子の色 白

秀明英光高校

5

天候: 曇り

2	-	1
0	-	2
2	-	3
1	-	0
	EX.	
	-	
	P.T.	
	-	

青 帽子の色

埼玉栄高校

6

審判1: 榎橋 邦宏
審判2: 榎本 隆

戦評

この試合から、昨年度の上位校が出場するシードゲームとなる。まずは昨年悲願の初優勝を果たした秀明英光と昨日の伊奈学園戦に引き続き同県対決となる埼玉栄の一戦。秀明は昨年活躍した中野兄弟をはじめ上級生がごっそり抜けた新生チームである。「チャレンジャー精神で…」とは監督加藤先生の弁。対する栄は昨日勝利の勢いをこの試合にもつなげていきたいところである。手の内を知り尽くしている同士やりにくい所もあると思われるが、ここで真実の埼玉チャンピオンを決めるとばかり、お互いヒートアップした攻防を見せる。均衡を破ったのは秀明、FL後藤がDFの攻撃に沈まずバックシュートを決める。栄は秀明のハード攻撃に耐えながらパスをつなぎ、ゴール前でFL小山内が退水を奪取し速攻で和田が決める。しかし中盤のつなぎでミスがでて、このチャンスをカウンターに結びつけた秀明がゲット。2pに入り、栄はFL小山内にボールを集めチャンスメイク、これに応えた小山内がまず同点のシュートを決めると、2'06"にも回し込みからGKをかわして逆転ゴール。2 - 3として折り返す。栄はドロップバックをうまく使いながら連携したDFで、FL後藤を中心とした秀明の猛襲に良く耐え、前半から調子の良いFL小山内がフローティングポジションを駆使しての3連続ゴールで一気に突き放しにかかる。小山内は2年生、小柄ながら強い脚とアンダーテクニックでゴール前にゾーンを作り出し、何度も繰り返したであろうアンブレラからのピンポイントパスを着実に得点に結びつけた。秀明は4点差を追うため、後藤と長沼(2年)のダブルフロート、これが当たり長沼がゲット、3p終了間際にも後藤がバックシュートで2点差に詰め寄る。最終p、栄は全員で必死のディフェンス、残り4'に退水が出て秀明はTOでパワープレイをじっくり回すが、栄の連携したディフェンスにシュートチャンスを失いゴールできない。それでも2'45"に後藤がフローティングから見事にバックシュートを決め1点差となる。俄然逆転へと盛り上がるが、追い上げられてもよく泳ぎ自分たちのプレースタイルを崩なかった栄がこの1点を守りきった。

今日は、小山内の活躍が目立った。ゴール前でよいセンスを発揮し栄の6得点中5点を上げ勝利に貢献した。そして僅差のリードを守りきった精神力は、昨日の伊奈戦の経験も多少なりとも身になっていると思われる。秀明は後藤・長沼を擁しながらフローターで真っ向勝負だったが、栄GK小島の好守に阻まれるなど総合力で力負けした形となった。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

10

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 0 - 2 \\ 1 - 3 \\ 1 - 3 \\ 1 - 2 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	尼崎北高校		津田学園高校	
	3		10	
天候:	曇り		審判1: 中 哲朗	審判2: 新井 睦士

戦評

尼崎北は、大分商業に競り勝ち、調子を上げてきた。津田学園は、2年連続2回目の出場で前年度4位、今年度は東海大会初優勝で波に乗り、インターハイ初優勝を目指す。

1p 津田はカウンターアタックから、左右に大きくパスを回す。尼崎はディフェンス重視で、攻撃は2人だけで、津田のカウンターアタックを避ける作戦。5'00''津田 溝上が強引にミドルシュートを決める(0-1)。すかさず尼崎は、3対2のチャンスを作り反撃するがノーゴール。ゲームは完全に津田ペース。津田はカウンターを果敢に仕掛ける。3'26''津田 石川が持ち込み7m付近センターから鋭いミドルシュートを決める。その後、津田はカウンターを仕掛けるが、尼崎のGK田崎がナイスキープ。1p(0-2)

2p 6'33''尼崎退水、津田 津川が左サイドからパワープレーで得点。尼崎はまだ2人攻撃を続ける。カウンターの津田のスピードが尼崎に勝る。津田 津川がゴール前で沈められながらも、強引にゲット(0-4)。尼崎は 石垣・古家・香田の3人攻撃にチェンジ。津田は、さらに攻め立て、尼ヶ崎退水のチャンスを得るがノーゴール、なかなか得点をあげられない。徐々に津田の攻撃はスロウダウン。シュートも、やや雑になり、小康状態が続く。尼ヶ崎のゴールキーパー林もナイスセーブを見せる。35''津田の退水から尼崎 堀口がパワープレーで初得点(1-4)。しかし、その直後、尼ヶ崎の退水から津田 菅野が左サイドからパワープレーで得点(1-5)。

3p 尼ヶ崎は全員攻撃を始める。しかし、6'00''尼崎退水、守りきったかに思えたが、津田 守口がうまく押し込む(1-6)。5'17''津田退水のチャンスに尼ヶ崎 石垣がパワープレーでトップから得点しさらに1点返す(2-6)。その後さらに津田のカウンターは続くが、尼ヶ崎キーパー田崎が上手く守り、津田のシュートがなかなか決まらない。それでも、津田は積極的にカウンターで攻め続け、得点を続ける。3p終了時点で(2-8)

4p 津田はGK林から伊藤に交代。5'51'' 石川のカウンターアタックから得点(2-9)。津田はプレスディフェンスからカウンターを仕掛け続ける。しかし、尼ヶ崎も必死に追い掛ける。また、尼崎GK田崎も必死に好セーブを連続。津田はなかなか得点を奪えない。逆に、1'06''尼崎は 古家がノーマークシュートで執念の得点をあげる(3-10)。

津田の勝因はカウンターで尼崎をかき回して、得意のFL中心の攻撃をさせなかったところにある。尼崎も作戦を立て臨んだが、津田には通用しなかった。しかし尼崎も粘り強い、好チームであった。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

2回戦

11

帽子の色 白

鹿児島南高校

5

天候: 曇り

2	-	0
2	-	2
1	-	4
0	-	1
EX.		
-		
P.T.		
-		

青

帽子の色

鳥羽高校

7

審判1: 小谷 正
審判2: 大島 明

戦評

ベスト8をかけての3試合目、実力伯仲の九州ブロックを1位抜けしてきた鹿児島南は昨年インターハイ3位のシードチーム、学校はやはりスポーツが盛んで、普通・商業・情報処理・体育と4学科を有する総合高校であり、今回実力ナンバーワンと目されている。対するは、昨日山形に快勝しがぜん評価の上がってきた鳥羽、マシンガンオフェンスが炸裂するか。

鹿南は前評判通り、高い・強い・上手い。鳥羽もスピードとうまさは負けていないが、鹿南の高さと強さが一歩リードしているようである。まず西かこいがミドルで先取点、1p終了間際にもカウンターをうまくつないで柚木がワンタッチでゴールネットを揺らし、2点リード。しかし鳥羽も負けていない。相手の前に泳ぎ込み退水を誘発し4'55"に宮越が決める。鹿南はまだ余裕のあるムード、西かこいがサイドから上手い回し込みで得点、続いて吉村がカウンターから抜け出し連続得点。やはり鹿南か?と思わせる。鳥羽は鹿南の強さに徐々に対応し始め、平面上のスピードで勝負を挑む。笠井がカウンターから抜けてゴール前で受けたセンタリングをたたき込んだ。鹿南2点リードで後半へ。3p、ここから様相が変わってきた。鹿南はややパワーが落ちてきたのか攻防のスピードやドライブに今一制裁を欠き、さらに再三退水を奪うもののなかなかゴールに結びつかず、じれったい思いがくすぶった感じ。この間に宮越が判断よくカウンターからノーマークとなり2点を奪い一旦同点とする。鹿南も逆転は許さじとパワープレー時に西かこいがゲットするが、退水チャンスがやっと決まった安堵感に隙が生まれた。鳥羽はゴール前クロスから切れ上がった白崎がミドルを決めると、神田がカウンターでノーマークとなりゴールしとうとう鳥羽が逆転する。最終p、追う立場に回った鹿南は、力と高さでゴールマウスを開けようとするが、どこにこんなスタミナが残っているのかと思わせるほど鳥羽はよく泳ぎ、スピードの衰えない動きで防御からカウンターを止めることがない。怒濤のように攻め入る鹿南だが、平面上のスピードで上回るようになった鳥羽は、必死でボールを追い決定的なチャンスを作らせなかった。1点差の攻防に息が詰まりそうな展開であったが4'08"には神田がうまい判断で抜け出しノーマークシュートを決め鳥羽は2点リードとした。鹿南は「まだ追いつける」と果敢にドライブを試みるが、刻々と時計は進みTOのトライも実らずタイムアップとなった。

鹿南は、吉村や平田や西かこいそしてGKの坂口など、基本的な身体の応力と鍛え抜かれた強さが光っていたが、退水チャンスを生かし切れなかったのが敗因といえよう。鳥羽は、とにかくよく泳いだ、動いたという印象である。水面上を平面的に制した鳥羽が埼玉栄に続き、シードの一角を切り崩したことになる。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

12

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

帽子の色	$\left. \begin{array}{r} 0 - 2 \\ 2 - 2 \\ 2 - 3 \\ 2 - 1 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	帽子の色
福岡工業高校		由良育英高校
6		8
天候: 曇り		審判1: 若林 和人 審判2: 田原 忠雄

戦評

福岡工業は関西を11 - 3で破って2回戦に進出、FL 羽野を中心とする得点力のあるチームである。一方、由良育英はシードで2回戦から登場、中国大会で優勝し8年連続19回目の出場を果たした。尚、由良は昨年度の準優勝チームである。実力校同士の対決は大変に興味深い。

1p 福岡は 羽野がFLで組み立てる。FBは由良 北野との激しい位置取りが見られる。由良は果敢にカウンターを仕掛ける。由良は 右田がFLに陣取る。両チーム当たりが強く、FLになかなか良いボールが入らない。

しかし、由良は3'02'' 前川が右サイドからミドルシートで先制(0 - 1)。由良は 池上もFLに入る作戦か。由良は自陣で福岡のターンオーバーを押さえて退水、しかし、由良GK中本キーパーナイスセーブ。由良は速攻から、キャプテン 右田が強引にバックシュートを決めて2点差とする(0 - 2)。1pは由良のペース、福岡はFLが機能しない。

2p 福岡の攻撃から始まる。しかし、オーバータイムで、由良はターンオーバーから 右田が簡単にDFをかわし追加点(0 - 3)。福岡は攻めが単調で、FLにボールがなかなか入らず、パスミス・パスカットを繰り返す。しかし、羽野が退水を取り、渡辺がパワープレーで反撃開始(1 - 3)。今度は由良が退水から1'18'' 今中が右サイドからミドルシュートを決める(1 - 4)。しかし、福岡も反撃、福岡 羽野が執念のFLシュートを決め、由良に追いつがる(2 - 4)。

3p 再び、福岡ボールでスタートするが、ターンオーバーとなり、由良 北野がゴール前からFLシュート決める(2 - 5)。5'44''由良は自陣で引っ張り込みの退水。ここで、福岡はタイムアウトを取る。5'28''福岡は見事に 羽野がトップからバウンドシュート決め2点差とする(3 - 5)。福岡はFLの動きをサンドイッチで防ぐ様になり、作戦的中。続けて5'02''福岡 谷川がミドルのバウンドシュート決め遂に1点差(4 - 5)。しかし、由良も キャプテン右田、池上が連続得点(4 - 7)し、再び3点差とする。また、由良のGK中本も好セーブをして、再び福岡を離しにかかる。

4p センターボールはまた福岡が取り攻撃するが、ターンオーバー。しかし、福岡は次の攻撃で5'54'' 渡辺が右サイドからゴール下に叩き付け、2点差(5 - 7)とする。また、福岡GK野口が好セーブを連発し、ディフェンス陣もFLをサンドイッチし、シュートをさせず、踏ん張る。

ペースは福岡に傾く。再び福岡にチャンス、3'31''にタイムアウト。2点差を追いつこうと、長濱監督の激が飛ぶ。しかし、ノーゴール。残り時間2'30''福岡は必死に攻め込む。由良は時間を稼ぎ出す。由良は福岡のターンオーバーのチャンスに、キーパーチャージから相手のパスを誘い、2対1として、貴重な1点をゲット福岡も 渡辺がミドルシュートを決めるがここまで(6 - 8)。

由良の勝因は、なんといっても キャプテン右田の活躍である。彼のフローティングを福岡のディフェンスが押さえられず、点差を開けられてしまった。また、前川・池上・今中の動きも良かった。福岡も苦勞をしていたが、FL羽野のパワーが光っていた。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

準々決勝

平成 14 年 8 月 18 日

会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

13

帽子の色

白

埼玉栄高校

8

天候: 雨・曇り

2	-	1
1	-	3
2	-	1
3	-	2
	EX.	
	-	
	-	
	P.T.	
	-	

青

帽子の色

前橋商業高校

7

審判1: 小谷 正

審判2: 中 哲朗

戦評

台風13号の接近により、競技日程を繰り上げて行う準々決勝、来年の長崎インターハイのシード権をもかけた4試合は、この日程変更がどうチームに影響を及ぼすか？もちろん高校チャンピオンを狙い、勝ち残った8チームには、目の前の相手に勝つことだけしか見えていない。

関東ブロックでの3位決定戦の再戦となったこのカード、前回は接戦の末前商が勝っている。またレベルの高いゲームが予想される。

本日ダブルヘッダーの栄、3時間前に終了した秀明戦から調子の良かった小山内がやはりゴール前でよい身のこなしを見せ先取点。前商も相手退水時にパスを回し、退水者が入水しつづれかけたチャンスを志賀が左45度から逆サイドにミドルを打ち込み得点。栄も小山内がゴール前で退水を誘発、このパワープレーシュートのこぼれ玉を上手く拾って和田が決めリードを奪う。2pに入ってもお互いの力強い攻防はやまず、前商がセットから左45度クロスでフリーとなった志賀が得意の逆サイドにグサッと決めると、5'07"にもパワープレーチャンスにまたも志賀がGKの頭上を抜いてゲットし前商リードを取る。栄も相手退水時にGKの手をはじきながら和田がねじ込み同点。逆に前商も相手退水チャンスを志賀が決めて1点リードで折り返す。3pに入ると今度は栄、2本の退水チャンスを大宮・鈴木が決めて逆にリードを奪い返す。それでもピリオド終了近くにパワープレーを星が入れ返し、同点で最終pに突入する。栄は最後の力を絞り出し奪った退水にTOし、落ち着いてこれを鈴木が決めると、続いて小山内がフロートからクイックシュートでゴールし貴重な2点の差を付ける。残り5分で2点を追う前商はハードプレスからカウンターを徹底し、退水誘発から糸井が決め残り3分で1点差に追いつく。しかしダブルヘッダーの疲れも見せず泳いだ栄は退水を取り返し、これを左サイドで小山内が丁寧に決めて前商の追撃を払いのける。残り1'12"退水のピンチに必死のディフェンスを見せる栄だが、GKのはじいたシュートを糸井が押し込み前商再び1点差に詰め寄る。最後の最後まで追いつく前商に、26"でパワープレーを得た栄もプレッシャーがかかったのか、回せば良かったボールをシュートして残り4"のチャンスを与えてしまう。前商はTOから最後の望みをかけてリレーシュートを試みるがシュートは無情にもゴールポストをそれた。

両チームとも死力を尽くしてプレーし好ゲームであった。退水の決定率では勝っていた前商であったが、栄のFL小山内のフロートゴール(2点)を許したことが勝敗を分けた結果となった。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

2回戦

14

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 0 - 3 \\ 0 - 1 \\ 2 - 3 \\ 5 - 2 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	常総学院高校		津田学園高校	
	7		9	
天候:	曇り		審判1: 大川 和二郎	審判2: 田原 忠雄

戦評

地元の常総学院高校は1回戦の名古屋高校に大勝して勝ち上がった。また、津田学園は2回戦から登場し、試合巧者の尼崎北高校に大勝して勝ち上がった。地元の声援を受け、常総学院の活躍が期待出来る。

1p 6'16''津田 石川がDFを背負って2段伸びで得点(0 - 1)。津田はカウンターから攻め込み、4'28''常総の退水を誘い、津田 菅野が左サイドからパワープレーで得点(2 - 0)。両チームの激しい攻防が続く。常総はオフェンスファールを再三取られる。1'36''津田 溝上が自陣で引き込み退水するが何とか守り切る。その後、両GKがナイスセーブ。16'津田 石川が右サイド回し込み、3点目ゲット。(0 - 3)。

2p 常総も攻め込むが、攻めが浅く、なかなかシュートが決まらない。ターンオーバーの連続が続く。常総 室町・下村が次々とゴール前に攻め込むが、焦りからか、どうしてもゴールを決められない。逆に、津田は 菅野からカットインした 村岡への見事なハット・トリックを決める。常総は無理なパスからミスが続く。(2pで0 - 4)

3p 開始早々の常総のカウンターアタックは惜しくも外れる。再び、オフサイドでチャンス潰し、5'27''津田 石川右サイドからミドルシュートを決められてしまう(0 - 5)。再び 石川 得点。4'18''常総 田村が左サイドからミドルシュートで初得点(1 - 6)。しかし、津田 村岡がゴール前に突っ込み、4mからGKの逆をつき技ありのバックシュート決める。常総 下村カットインで反撃(2 - 7)。さらにターンオーバーから津田の退水を誘い、タイムアウト。しかし、GKにシュートコースを読まれ失敗。ターンオーバーの連続。3p(2 - 7)。

4p 6'26''津田退水からパワープレーで 室町得点(3 - 7)。常総攻め込むが津田GK林が好セーブ。津田退水から 下村がバックシュートで反撃(4 - 7)。常総の動きがよくなる。再び、下村得点で2点差(5 - 7)。4'45''常総右サイドのオーバーアタックの退水から津田 菅野パワープレーで得点(5 - 8)。激しい攻防が続く。やや両チーム動きが遅くなる。2'56''津田の退水で常総 斉藤がパワープレーで得点(6 - 8)。津田 村岡が不用意な退水を犯したが、守りきり、ターンオーバーから 石川がノーマークミドルを決める(6 - 9)。常総も粘り、室町がゴール前に切れ込んで得点。しかし、常総の反撃もここまでであった。(7 - 9)津田は、村岡・石川・菅野の活躍し、常総は、下村・室町が頑張っていた。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

準々決勝

平成 14 年 8 月 18 日
会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

ゲーム

15

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 1 - 2 \\ 0 - 1 \\ 0 - 3 \\ 0 - 5 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	長濱北星高校			由良育英高校
	1			11
天候:	曇り			審判1: 榎橋 邦広 審判2: 田原 忠雄

戦評

昨年準優勝の由良育英、先刻の福岡工業戦は熾烈な戦いであった。長濱北星も午前中のゲームで富山北部を破って勝ち上がり、ベスト4を狙う絶好のチャンスである。

ややスローな立ち上がりの両チームであるが、ゴール前での位置取りとドライブのスピード変化には見所がある。長濱が虚をついた田中のミドルシュートで先制するが、由良はまだ始まったばかりと落ち着いた様子。エースFL右田を中心にじっくり攻め2本の退水を奪いこれを右田・今中が得点、あっさり逆転しリードを奪う。2pに入ったところでも右田が右ポストで回し込みディフェンスを振り切るとGKのタイミングを外してゲット。長濱も田中や成田が果敢に攻め入るが、由良の重たいDFを破ることができない。2回のパワープレーチャンスも高い壁のようなハンズアップに苦しめられ、良いタイミングでシュートを放つことができない。由良は3pに入っても厚みのある攻防で自分たちのペースを崩さず、右田のフロートからバックシュート、さらに右田のところで退水を取り、ピリオド終了間際にはセットからカットインした北野に前川が右サイドからアシストパスを合わせるなど多彩な攻撃で1 - 6とリードを広げる。最終pにはダブルヘッダーの疲れも感じさせず、ターンオーバーからカウンターをかけた中山・今中・北野が得点し勝利を決定づけた。さらには右田の力強いフロートと石田のコースをついたミドルシュートでだめ押し点を奪った。

終わってみれば1 - 11と大差となったが、長濱はシュートチャンスまでは構築するものの最後の詰めで良いシュートを打たせてもらえなかった。北野を中心とした由良の高くて力強いディフェンス力も目についたゲームであった。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

3回戦

16

平成 14 年 8 月 18 日

会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 2 & - & 1 \\ 2 & - & 2 \\ 5 & - & 1 \\ 2 & - & 3 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色	
	鳥羽高校			金沢工業	
	11			7	
天候:	曇り			審判1: 若林 和人	
				審判2: 大島 明	

戦評

鳥羽高校は2回戦の鹿児島南高校に7 - 5で競り勝ち、金沢市立工業高校は2回戦の柴田高校に5 - 4で競り勝ち、3回戦に勝ち上がった。

1p 鳥羽のマイボールで始まる。鳥羽 宮越がターンオーバーから鋭い動きでノーマークの得点(1 - 0)。しかし、金沢も5'19'' 村山がゴール左サイドからGK沈んだ所を得点(1 - 1)。泳ぎのスピードは鳥羽が勝っている。金沢はベンチから遅攻の指示。鳥羽は次々とゴール前に切れ込む。遂に金沢 加藤がPFを犯し、鳥羽 宮越得点(2 - 1)。金沢 村山のカットインシュートは惜しくもポストに阻まれる。しかし、彼の動きはなかなか切れがある。

2p 金沢はまだ遅攻。5'36'' 鳥羽 渡辺が鋭くカットインで得点(3 - 1)し、引き離しにかかる。しかし、金沢FL 斉藤粘ってボールキープ、敵ファールで素早く7mシュート(3 - 2)。

3'47'' 鳥羽 芝山がPFを犯し、金沢 斎藤が得点で同点(3 - 3)。今度は、1'17'' 金沢 斉藤の退水から鳥羽 渡辺がノーマーク・パワープレーで得点(4 - 3)。

3p 鳥羽ボールが始まる。6'48'' 白崎がカットインでゲット。続いて、退水から 渡辺パワープレーゲット。鳥羽のたたみかける攻撃が金沢ゴールを襲う。金沢ピンチ。再び、鳥羽GKから 白崎 渡辺と素早くパスを繋いで、鳥羽連続得点。さらに 宮越が加点(8 - 3)。金沢も食い下がり、3'06'' 斉藤がしぶとくFLからゲット(8 - 4)。鳥羽の攻撃はさらに続く、鳥羽の3対1のチャンスを金沢GK上田がナイスキープ。上田の好守が光る。しかし、鳥羽のプレスは早くて、強い。カウンターから35'' 鳥羽 白崎ゴール前でゲット(9 - 4)し、パワーで引き離す。

4p 再び、鳥羽ボールから始まるが、ここは金沢が守り切る。その後の、金沢自陣での退水もしのぎ、金沢も落ち着いて来る。しかしFL 斎藤にパスが繋がらない。金沢の攻撃は単調になっている。3'06'' 鳥羽 白崎ゴール前で退水、村山が右サイドからパワープレーからミドルシュートでゲット。鳥羽 笹井の鋭い切れ込みでさらに追加点。金沢も粘り、1'28'' 瀬戸ゴール前で得点。しかし、すぐさま鳥羽 格谷にカットインシュートをみまわれる。激しい攻防が続き、最後に、57'' 金沢 斉藤がFLからタップで押し込む。

鳥羽は全員のプレスが早く、ハードプレスで、金沢の攻撃を封じていた。また、宮越・白崎・渡辺のゴール前の攻撃は、素早く切れ込み、DFを翻弄していた。また、金沢はFL 斎藤・GK上田・村山・瀬戸の動きが目立っていた。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

準決勝

平成 14 年 8 月 19 日

会場: 茨城県・ひたちなか市菅石川町プール

ゲーム

17

帽子の色	白	$\left\{ \begin{array}{ccc} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \\ 2 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	埼玉栄高校			学法津田学園高校
	4			1
天候:	曇り			審判1: 榎橋 邦広 審判2: 榎本 隆

戦評

台風13号の動向を見ながら日程変更を余儀なくされた今大会も3日目を迎え、ベスト4が出そろった。本年度の高校チャンピオンを目指し準決勝が行われる

埼玉栄高校は、「人間是宝」を校訓とし創立され30年ほどになる私学校。スポーツをとおしでの人間教育にも力を入れほとんどの部活動が全国レベルである。学法津田学園高校も「自由・自主・自立」を教育目標に、文武両道、スポーツ活動にも意識が高い。野球部は春の甲子園2回出場している。両校とも「ここまで来たら絶対優勝!」と意気込みを表している。

序盤はお互い様子をうかがいながらの立ち上がり、栄はフローターケアのギャップを上手く使ったディフェンスからカウンター、セットオフェンスはもちろん今大会絶好調の小山内中心。津田はやはりフローターにボールを入れさせない下がり目の守りからトップがカウンター、セットになるとフローター中心というよりもFWが自由なインスピレーションのもと個人技で突破しチャンスメイクするといった感じ。栄は下がり目のディフェンスに対しパス回しからミドルシュートを狙うが、津田GK林の好セーブに阻まれる。津田は積極的にドライブを仕掛けながら中で勝負しようとするが、アシストパスに対応して栄ディフェンス陣がすぐさま殺到しチャンスを潰す。そんな展開が2pの終盤まで続く。この間にお互いパワープレーチャンスがあるものの、集中したディフェンスにゴールを割ることができない。得点が動いたのは2'01"カウンターの流れで退水が出て、津田のパワープレートップから菅野がスピードのあるミドルシュートを決めまず先制。栄もすぐさま下がり目のディフェンスに右45度からハンズアップの手の外側を上手く抜いて鈴木がミドルをコーナーに突き刺す。3pは栄のリズムがかみ合う。俄然カウンターのスピードが上がりディフェンスの集中を萎えさせたところで、細川のミドルシュートが決まり1点リード、だんだん栄のミドルシュートがいいところに行き始めると、津田のディフェンスが上がり気味になり小山内が空き、2'01"には得意のポジションでフロートからクイックなシュートを決め2点のリードをもぎ取った。津田はこれ以上離されると追いつけないと、積極的なドライブで栄ディフェンスを中に押し込んだところでミドルシュートを放つが、栄GK小島が好セービングを見せる。実は、津田の監督館先生は大事なインターハイ前に体調を崩し1ヶ月の入院を強いられ、練習や東海ブロック大会についていてやれなかった。試合前にこのことを不安がっていたが、津田の選手達に焦りが見える。栄ペースが続き最終pに入り刻々と時間がなくなる。栄は4'15"に退水を奪うところが勝負所と2回目のTOを取得、津田もこの退水ゾーンを守り切らねばチャンスが失せると高いハンズアップを見せるが、正確なパスでゾーンを崩され、栄の大宮が左サイドから貴重な追加点をあげた。津田は菅野のセンスある動きからのシュートで応戦し粘るが、ゴール前の決定的なチャンスでさえ栄GK小島の鉄壁の守りにゴールを割ることが出来ずタイムアップを迎えた。

栄は描いた筋書きとおりのゲームが出来たのではないだろうか、18年連続出場・優勝2回の実績は伊達ではない所を見せ、3年ぶりの優勝にまっしぐらである。津田は、個人技能の高い選手も多いが、栄のペースに翻弄され組織的なまとまりが最後まで作れなかった。昨年引き続き3位決定戦に回ることとなるが、一つ上位をねらってほしい。

記録者

南部 健

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

準決勝

18

平成 14 年 8 月 19 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 1 - 4 \\ 3 - 2 \\ 3 - 2 \\ 3 - 1 \\ EX. \\ - \\ - \\ P.T. \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	鳥羽高校		由良育英高校	
	10		9	
天候:	曇り		審判1:	新井親士
			審判2:	田原忠雄

戦評

鳥羽は2回戦(鹿児島南戦7-5)、3回戦(金沢工業戦11-7)を接戦で勝ち上がってきた。一方、由良は2回戦(福岡工業戦8-6)は接戦だったものの、3回戦(長浜北星戦11-1)は大勝して勝ち上がってきた。由良はFLキャプテン右田を中心とする攻撃とGK中本・FB北野を中心とする防御が素晴らしい。鳥羽はキャプテン宮越はじめ2年生の白崎・渡邊らの切れ味のいい機関銃のような連続攻撃は、相手DFを翻弄し、破壊力があり、DFのファールを誘う。両チームの戦いは点の取り合いになりそうな予感がする。

1p 鳥羽ボールでスタート。6'18''由良カウンターアタック。北野右サイドを抜けループを楽々と左コーナーに決める(0-1)。さらに4'39''右田がFLからDFを振り切りゲット。右田強い。6'10''鳥羽の退水取るがOT。2'4''再び由良の右田FLで加点(0-3)。由良は勢いづく。2'12''鳥羽 芝山退水。2'02''また 右田GK脇の下からパワープレーでゲット(0-4)。由良はGKからのパスの通りがナイス。しかし、鳥羽は1'45''宮越右サイドから1点返す(1-4)。鳥羽の積極的なカウンター攻撃を由良GK中本ナイスセーブ連発。

2p 鳥羽ボールから。由良のDF効いている。鳥羽思わずハンドオフ。5'49''鳥羽 渡邊センターからミドルを左サイド下にゲット(2-4)。4'34''由良カウンターから 右田がゲット。右田すごいパワー。しかし、すぐさま4'12''鳥羽 宮越反撃(3-5)。点の取り合いとなる。3'11''GK中本からの絶妙なロング・ダイレクトパスで 北野がノーマークシュート決める(3-6)。GK中本ナイスパス。激しい攻防が続く。鳥羽DFがFLをサンド。1'00''由良 右田が思わず退水。宮越パワープレーでゲット。2'8''由良 榎本退水するが、GK中本ナイスセーブ。鳥羽の連続攻撃が続く。由良凌ぐ。(4-6)

3p 再び鳥羽から開始。5'56''鳥羽 白崎DF二人をかわし、自らねじ込む(5-6)。鳥羽GK雲井もナイスセーブ。鳥羽ゴール前でパスアンドラッシュ。由良も負けず攻め込む。由良カウンターから3'28''前川カットイン右サイドに決める。ナイスゴール。しかしその後、鳥羽の攻撃はパワーアップ。鳥羽は退水を連続して取り、2'53''鳥羽 宮越、2'36''渡邊が連続パワープレーで同点(7-7)とする。しかし、由良も粘る。1'14''右田FLから外に開き、GKかわしループで逆転。右田5点目(7-8)。

4p また、鳥羽から。鳥羽はゴール前パスアンドラッシュ連発。由良GK中本パスカットで防ぐ。由良は必死に守る。両チーム疲れたか、ややペースダウン。しかし、再び鳥羽攻勢かけ始める。執拗なラッシュが続く。由良 前川思わず退水し、鳥羽 芝山はクイックでついに同点(8-8)。鳥羽パワーアップ。渡邊カウンターから4mセンターからゲット、逆転(9-8)。鳥羽のデフェンスもパワーアップ。しかし、由良 北野が上手くパスカット。カウンター攻撃。ゴール前、鳥羽芝山が 右田に対しPFを犯し、北野がPS決める同点(9-9)。しかし、残り36''由良 前川が永久退水となり、鳥羽 芝山執念のパワープレーで逆転(10-9)鳥羽のゴール前攻撃(パス&ラッシュ)は、しつこく、由良DFにダメージを与えた。鳥羽では宮越・芝山の動きが光っていた。由良では 右田、北野の攻撃が目立ち、GK中本の守備も良かった。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

3位決定戦

19

平成 14 年 8 月 20 日
会場：茨城県・ひたちなか市営石川町プール

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 2 & - & 2 \\ 0 & - & 4 \\ 1 & - & 2 \\ 2 & - & 4 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	津田学園高校			由良育英高校
	5			12
天候:	晴れ			審判1: 中 哲朗 審判2: 大島 明

戦評

3位決定戦は、昨年度インターハイ準優勝の由良育英高校と第4位の津田学園高校の戦いとなった。由良のキャプテン右田は今大会大活躍のFL。右田はゴール前でテクニックもあり強靱。準決勝鳥羽戦でも活躍。またDFはFB北野が引っ張る。北野は来週から中国・球海(ジュカイ)で開催されるAASF(アジア水泳連盟エージグループ大会)の日本代表にも選出された。一方、津田はキャプテン村岡・菅野(2年)・石川(2年)を中心とする攻撃力が秀でている。津田は長・中距離から積極的に強烈なシュートを放ち、由良GK中本としても要注意。

1p 津田ボールでスタート。5'28''キャプテン 右田FLに入り難なくバックシュートでゲット先行(1-1)。さらに、カウンターからゴール前で津田ハードアタック犯す、由良 池上のPFで4'35''津田 菅野がPS決める(1-1)。一進一退の攻防が続く。また、2'41''由良池上右サイドからゲット。津田も反撃し、2'10''石川から 菅野にナイスパス、左サイドにゲット(2-2)。由良も負けなし。カウンターを仕掛ける。GK中本から素早いボール繋ぎで、津田DFやむなく退水、しかし由良無得点。(2-2)

2p 津田から。由良DFプレス強く、津田の攻めはやや浅い。津田は 右田を徹底的にマークする。しかし、右田はキーパーとサンドになるところナイスパス。5'38''前川決める。GKは完璧に振られる。(3-2)4'52''由良 カウンターからナイスシュート。津田キャプテン 村岡を起点にパスを回すが、上手く繋がらない。由良の右田が2'52''、28''と連続得点。由良は右田中心に攻め立てる。このピリオドは完全に由良のペース。(6-2)

3p 津田ボールから。津田も積極的にカウンターを仕掛けるが由良ナイスDF。由良ゆっくりと攻め始める。ややペースダウン。4'25''由良 今中ミドル決める。北野も攻撃参加。津田は強引に攻めるが、FLまでパスが繋がらない。2'14''由良 右田KLから手首を効かせて、GKかわしてゲット(8-2)。57''由良 池上ゴール前で思わずハードアタックで退水。41''津田 菅野強烈に左コーナーにパワープレー、ゲットし反撃(8-3)。

4p 津田から。津田 菅野のバックシュートをGK中本反応良くセーブ。6'04''由良 北野カウンターから難なくゲット。由良のプレスDFが効いて、津田のFLがゴール前に入れない。トップからシュート撃つが枠外。再び、由良カウンターから、5'02''前川余裕のループシュ。4'02''由良 右田カウンターからノーマークでゲット。由良はよく泳ぎ、プレーに余裕がある。DFも 北野中心に機能している。由良は津田を攻め立てる。3'07''津田はTO。2'50''菅野、2'02''石川が連続ゲット(11-5)。津田の動きが良くなる。さらに津田速攻掛け、村岡がバックシュート放つがGK中本が上手く反応し決まらず。56''津田 津川が退水するが、DFとGKが必死に守る。1''北野のシュートで由良12点目を上げて大勝。由良が第3位となった。

由良はキャプテン 右田がFLで、今中が中盤で大活躍。右田のパワーとテクニックは素晴らしい。また、みごとなキャプテンシーも発揮していた。由良は泳力でも津田を上回り、終始安定した攻防を見せていた。DFは北野を中心にカウンターをあげせ、なかなか攻撃のチャンスを与えなかった。津田はキャプテン 村岡がゲームメイクするが、なかなかパスが繋がらず、シュートチャンスが少なかった。しかし、津田の 菅野は一人で4点得点し、粘り強いところを見せていた。また、両チームのGKも頑張っていた。

記録者 石塚 学

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

決勝戦

平成 14 年 8 月 20 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

20

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 1 & - & 2 \\ 1 & - & 1 \\ 3 & - & 1 \\ 0 & - & 3 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	埼玉栄高校		鳥羽高校	
	5		7	
天候:	快晴		審判1:	大川和二郎
			審判2:	小谷 正

戦評

夏の太陽が降り注ぐ晴天の元、茨城はひたちなかの地で本年度の高校チャンピオンを掛けて決戦が始まる。黒金の腕を持つ若人たちが水しぶきを上げる様子を、台風も遠巻きに見ているようである。

スタートからエンジン全開の両チーム、鳥羽はパス&ゴーで栄ディフェンスを攪乱し、フローターポジションで退水を奪取し、渡邊が中でゲット。栄も鋭いドライブから引き戻しの退水をもぎ取り、これを左イドの大宮が決める。鳥羽は2'35"宮越が右サイドからDFをかわしてカットインし、栄の守護神小島の面脇を抜くシュートで1点リードする。2p鳥羽に退水がでたところで、栄は早めのTOでまず同点を狙うがこれが決まらない。鳥羽はカウンターから中盤でのクロスでノーマークを作り出し、格谷がゲットし逆に鳥羽2点のリードとなる。この大会常にリードし逃げ切って勝っているゲームが多い栄、逆に前半の劣勢を跳ね返し逆転で勝っているゲームが多い鳥羽、この状況がどう影響するか気になるところである。しかし落ち着いている栄は、小山内がいいタイミングで飛び出したカウンターをそのまま決めて、また1点差とする。3p鳥羽は基本とするオールコートプレスからあくまでカウンターを狙うが、戻りが遅れ中の小山内が空くことが多くなった。6'10"にはサイドからのアシストをうまいボディーコントロールでDFをかわし、技ありのルーブシュートを小山内が決め同点とする。しばらくお互いミスがでてターンオーバーを繰り返すが、鳥羽は宮越がフロートから強気のゲット。しかし栄も和田がフロートから上手いシュートを決めてまた同点となる。さらに栄は小山内が得意のポジションを取ったところへ上手くパスをつなぎここで退水を奪うと、和田が左サイドでしっかり決め、栄この試合初めてリードを奪う。栄ベンチは「よっしゃ！」とガッツポーズがでる。実はこのパーソナルFでいい動きをしていた鳥羽の神田がPF3回の永退となり鳥羽ピンチと思われた。しかし岩佐先生は「何やとんじゃー」という程度で、次のこと考えてました」と言うとおり、選手達は動じず最終pに突入した。行くしかない鳥羽は、クロスドライブから上で渡邊が浮いてミドルシュートをコーナーに突き刺すと、5'41"にも白崎からのアシストを笹井がゴール前でタップしてゲット、一気に逆転する。泳ぎが止まない鳥羽に対して、それをを上回るカウンターを応酬する栄であるが、疲れからか決定的なシュートまで持ち込むことが出来ずにいる。1'10"にはこの試合ラッキーボーイの渡邊が右サイドからミドル気味のシュートを決めとどめを刺した。

栄のリードは一時であった、この試合だけはリードを守り抜くことが出来なかった。今大会を通して勢いのあった鳥羽が、最後まで押し切ってしまったというゲームであった。

勝利のダイブで歓喜を表す鳥羽チームに対し、スタンド下のプールサイドの角で頭をうなだれている栄の選手達が印象的であった。しかし落ち込んでいる場合ではない、喜びも悲しみも明日の糧となるのがスポーツである。このプールで汗を流した君たちが、やがて日本代表を背負ってプレーする日を楽しみにしたい。

記録者

南部 健